

2019 年度決算 電話説明会 主な質疑応答

・日時	2020 年 5 月 14 日 10 : 00 ~ 11 : 00		
・出席者	代表取締役社長	最高経営責任者 CEO	清水 洋史
	取締役	最高財務責任者 CFO	松本 智樹
	取締役	不二製油(株)代表取締役社長	大森 達司
	上席執行役員	最高経営戦略責任者 CSO	丸橋 康浩

<業務用チョコレート事業について>

Q.業務用チョコレート事業について、COVID-19 によるマーケット変化をどのように見ているか

A. 健康志向・エシカル消費の高まりや EC を中心とした購買行動の変化が見込まれ、対応した商品開発や取組みを各地で開始している。チョコレートは欧米では生活必需品であること、またアジア圏では低コスト品であることから、節約志向によるチョコレート製品の消費減少などは想定していない。

Q.今後のチョコレート戦略は

A.世界的にも需要は拡大しており、注力すべき分野として、同セグメントで 100 億円以上の営業利益を稼ぎたいと考える。日本はフルキャパシティであり、カラーチョコレートや人手不足に対応する成型チョコレートなど、付加価値が高いものに注力していく。世界では、各エリアで個社の最適化を進めると共に、HD を中心とした経営資源の投入やサポートをグループ全体で進めていく。またグローバル戦略としては ①世界共通の戦略製品 ②グループ会社間の生産キャパシティの補完 ③Blommer ブランドの有効活用 ④購買およびサステナブルなカカオ豆調達力の強化 を進めている。

Blommer について

Q.Blommer について：2020 年度の増益計画（コロナ影響考慮前）の前提や確度は

A カカオ豆の先物評価損益の抑制、生産性改善によるコストダウン、および売上増による営業増益を計画している。2019 年度に PMI およびグループ各社からの人的リソース・経営資源の投入によって、同社の課題である不安定な生産や不良品率の改善に注力してきた成果が表れてきている。また、カカオ事業の市況悪化に対し、付加価値が高い製品群の拡販によってカバーしていく。

ハラルドについて

Q.ハラルドについて：2020 年度下期の回復計画の前提は何か

A. 主力市場である製菓問屋やフードサービス市場は COVID-19 の影響を見込むが、注力してきた生産性改善によるコストダウンに加え、販売戦略の強化による販売チャネルの拡充や消費者に訴求できる新製品開発を進めている。また、レアル安については為替の手当でヘッジをしているほか、輸出等によるカバーを進めたい。

<その他>

Q.CF について、2020 年度業績予想の CCC 9 日短縮（対前年）はどのように実現するか、またその効果額は

A.各社における在庫の適正化に加え、Blommer の購買スキームの導入完了によるカカオ豆在庫の大幅圧縮による効果を見込む。今期の売上高を 3,700 億円と計画しており、CCC の一日短縮により、約 10 億円程度のキャッシュ創出を見込む。

なお、中期経営計画の2016年対比で10日間の短縮目標には達しておらず、特にBlommerのカカオビジネスにおける長期在庫は今後の検討課題である。

Q.中期経営計画について、事業ポートフォリオの整理や運営についてどのように評価しているか。

A.業務用チョコレートの利益実績面で課題はあるが、各社の課題の把握は出来ており、それに対する対策も進んでいる。また業務用チョコレート事業に投資を集中しているが、植物性油脂事業はサステナブルなパーム油やチョコレート用油脂といった製品群の強みを確立しており、基盤として当該事業を保持する意義を再認識している。

以上